



パリ開催へ調印

知事ら 市美術館と共同事業

【パリ＝清水俊徳】 慶田由紀子知事と県社会福祉事業団の北岡賢樹理事長がフランスを訪れ十八日、同事業団の協力で日本の障害者美術展を開催中のパリ市立アル・サン・ピエール美術館と新たな共同事業に合意し、パリ市庁舎で業務提携書に調印した。二、五年後に同館で、欧州で初めての大規模なアジア障害者美術展を開く。

アジア障害者美術展

【パリ＝清水俊徳】 慶田由紀子知事と県社会福祉事業団の北岡賢樹理事長がフランスを訪れ十八日、同事業団の協力で日本の障害者美術展を開催中のパリ市立アル・サン・ピエール美術館と新たな共同事業に合意し、パリ市庁舎で業務提携書に調印した。二、五年後に同館で、欧州で初めての大規模なアジア障害者美術展を開く。



アジア障害者美術展の業務提携書に調印した慶田由紀子知事(左)と北岡賢樹(右)・県社会福祉事業団理事長(右から)パリ市庁舎で

の優れた作家を発掘し、欧州に紹介する。ル美術館の日本の障害者で「障害の壁を乗り越えて」を語った。

卓越した芸術的表現力を持つ知的障害者を見出し、作品の価値を発信してきた近江八幡市水原町の美術館「ポータレス・アートミュージアムN O・M A」(これまでスイスとフランスで開催された展覧会は大きな反響を呼び、芸術的価値が世界で認められつつある。これを契機にN O・M Aは活動の拠点をアジア地域に広げ、新たな才能の発見と調査研究を担う拠点を目指すとしている。奇矯な形のかたまりから「めっ」と飛び出す無表情でユーモラスな顔が印象的な陶芸。あふれる色彩を、未知の法則が支配しているかのような世界が広がる不思議な絵画。N O・M Aが発掘した知的障害のある作家の作品は、既成の芸術の概念をいとも簡単に打ち破つていく。同館のアートマ

者美術展は好評で、今年二月の開催以来、延べ五万人以上が来館。パリ市は十八日、街の文化の発展に貢献したとして、滋賀県民を代表する形で慶田知事と北岡理事長の二人に文化勲章を授与した。

慶田知事は記念式典で「障害の壁を乗り越えて」と題して、

「精神の底辺に流れる衝動か、何か共通したものがある。二〇〇四年にN O・M Aが設立された。このような情報の蓄積が、県社会福祉事業団から、今後は作品を収集し、保存する機能を持つこと。現在は作家個人の情報と作品の画像データを事業団で管理。しかし、学術的に調査研究を進めるためには実物のコレクションが欠かせず、それに大きなコストがかかる。嘉田由紀子知事は「彼らの表現力に私も心を打たれた。滋賀の大きな発信力になる事業で、アジアの拠点づくりに向けた支援を前向きに考えていく」と語った。(林勝)

えて発信する(作家たちの)力を、日本だけでなく、アジア地域で大きく発展させることを誓った」と新たな共同事業の抱負を述べた。

近江八幡の作品収集、保存機能が課題

才能発掘「拠点」目指す



●千原の八重理道代さんの絵画作品 ●甲賀市の鎌江一美さんの陶芸作品 (いずれもN O・M A提供)



感動を与える宝になったと意義を語る。さらに「アジアにはまだまだ多くの宝が埋もれているはず」と、N O・M Aをアジアにおける活動拠点とする計画を進めている。既に〇八年から韓国と台湾で調査を実施しており、福祉や美術の専門家とのネットワークが広がりはじめた。

「精神の底辺に流れる衝動か、何か共通したものがある。二〇〇四年にN O・M Aが設立された。このような情報の蓄積が、県社会福祉事業団から、今後は作品を収集し、保存する機能を持つこと。現在は作家個人の情報と作品の画像データを事業団で管理。しかし、学術的に調査研究を進めるためには実物のコレクションが欠かせず、それに大きなコストがかかる。嘉田由紀子知事は「彼らの表現力に私も心を打たれた。滋賀の大きな発信力になる事業で、アジアの拠点づくりに向けた支援を前向きに考えていく」と語った。(林勝)

大津支局	077(23)3388
彦根支局	0748(23)1234
彦根市庁舎内	0748(31)3436
甲賀支局	0748(82)0347
甲賀市庁舎内	0748(82)0347
草津支局	077(52)0220
水之本支局	0748(82)3250
宇治山田支局	077(22)0202
滋賀センター	057(22)0202

滋賀県知事に パリ市から勲章

障害者作品展開催で

【パリ共同】パリ市当局は18日、市庁舎で滋賀県の嘉田由紀子知事と同県社会福祉事業団の北岡賢剛理事長の2人に銀メダル勲章を授与した。日本の知的障害者らが参加し同市の美術館で開かれている作品展「アール・ブリュット・ジャポネ」への貢献などが評価された。パリ市が授与する勲章は三つあり、銀メダルは2番目に価値が高い。

市立美術館「アール・サン・ピエール」で3月から開かれている作品展は、同事業団などの協力で日本全国の作家63人の約1000作品が展示された。団体客を除く個人の鑑賞者だけで5万人以上が訪れたとされ、美術館側は「大成功」としている。

叙勲式で嘉田知事は「障害ある子供たちを世の光に」という言葉を紹介しながら「このような展覧会を、日本だけでなくアジア地域で発展させていきたい」とあいさつ。

北岡理事長は「福祉とは人間としての誇り、立つ瀬を持つことだと信じてやってきた。勲章は、事業団のスタッフ全員の喜び」と述べた。